

研究・調査報告書

報告書番号 209	担当 札幌医科大学医学部薬理学講座
題名 (原題/訳)	
Enhanced and delayed stress-induced alcohol drinking in mice lacking functional CRH1 receptors. 機能的な副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン (CRH) 受容体欠損マウスでは、ストレスによるアルコール摂取の増強が遅延して (生涯) 持続する。	
執筆者	
Sillaber I, Rammes G, Zimmermann S, Mahal B, Zieglgansberger W, Wurst W, Holsboer F, Spanagel R.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Science 296:931-933 (2002)	
キーワード	
アルコール依存症、アルコール摂取、ストレス、副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン、NMDA 受容体、ノックアウトマウス	
要 旨	
<p>これまでの研究から、ストレスとアルコール摂取との関連が示されている。この論文は、内分泌系や行動でのストレス応答を仲介している副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン (CRH) 系が、長期間のアルコール摂取の調節に関与していることを示している。機能的な CRH1 受容体を欠損しているノックアウトマウスでは、ストレスの負荷によってアルコール摂取は増加し、その程度の進行的な亢進がみられた。マウスに繰り返し与えられたストレスによって生じるアルコール摂取行動の亢進は、(一時的なものでなく) マウスの生涯を通じて生じていると考えられた。このような変化には、NMDA 受容体サブユニット NR2B の増加を伴っていた。ストレスによって生じる CRH1 受容体遺伝子の変化や適応的な NR2B サブユニットの変化は、ストレスによって誘発されるアルコール摂取 (の増加) やアルコール依存症の遺伝的危険因子となっているものと考えられる。</p>	